

たばたあずみ



Tell・Fax 550 6674

山根とみえ



Tell・Fax 550 4224

戸沢ひろゆき



Tell・Fax 558 9721



たばたあずみ議員の一般質問

たばたあずみ議員は12月議会の一般質問で(1)生活保護について (2)保育園待機児童について (3)小中一貫教育の内容について 質問しました。以下、内容をお知らせします。

生活保護は自立のための必要な支援

長引く不況から生活保護の利用者が増えています。国が受給者数を抑制しようとしています。本市では申請抑制が行われることはないか質問しました。

市は、生活保護法に準じて申請を受けており、申請拒否はしない、国が生活保護制度を見直しているが、給付の適正化がその内容であり、必要な人には支援するという基本的な考えは維持されると答えました。



給付の適正化については、就労を促す自立支援や、過剰な受診・薬の投与などのチェック、不正需給に対する罰

則強化などが主な内容であると説明しました。

たばた議員は、ごく一部の不正な受給者のせいで、本当に必要で保護を受けている人たちが肩身のせまい思いをしており、しっかり審査をするよう要望。さらに、他自治体で、保護申請をしようとしたDV被害者の女性が、夫に扶養照会をされると言われて申請をあきらめた例を挙げ、本市での対応を質問。市は、扶養照会が本人の自立を妨げることが明らかな場合、省略することができるので、配慮して対応していると答えました。

たばた議員は、必要な人がきちんと保護され、少しでも自立した暮らしができるように必要な支援がされるよう、今後も努力することを要望しました。

保育園待機児 解消は待ったなし

市民アンケートでも要望の多かった保育園の待機児解消について、本市の多様な保育サービスの可能性や潜在的な待機児の調査を求めて質問しました。

市は、8月に交付された子ども・子育て関連3法により、潜在的需要を把握するためのニーズ調査をすることになったが、まだ全国的な指針が決まっていない、定員増などはニーズ調査の後に考えていくと答弁。

また、現行の保育園の入園手続き・支払い方法は当分は継続されますが、幼稚園の入園手続きが市への申請に変わることが説明されました。



お友達とケーキ作り

たばた議員は、はじめから申請をあきらめている人に申請を呼びかければ、ニーズ調査を待つ必要もないと提案しましたが、市はあくまでも国の指針を待つ姿勢を崩しませんでした。

たばた議員は、認可保育園をこそ増やすべきですが、待ったなしの待機児対応のため、保育ママの基準を市独自に高くし、安心して利用できる施策を提案。市は、来年度からはじめる子ども・子育て会議の中で検討していきたいと答えました。

小中一貫教育ってなんだろう？

市が進めようとしている小中一貫教育の内容が知られておらず、不安や期待が一人歩きしているため、具体的な内容について質問しました。

市は、9年間一貫した指導がされることは社会の要請であり、児童・生徒に生きる力を身につけさせるためのものである、制度変更は必要最低限にすると答えました。

たばた議員が、関係者の不安は、三鷹市や品川区のような「小中一貫校」にするのではないかということだと指摘すると、市は、そのような特別な制度は考えていない、学校組織も小学校と中学校そのままだと答弁しました。

たばた議員は、そもそも義務教育は一貫したものであり、先生が目の前の子どもたちと丁寧に日々を送ることが大切、小中一貫教育推進のために年間約30回会議や研究授業をする必要があるのかと疑問を示しましたが、市は、長期休業などを利用して、教育活動の妨げにはならない、今まで少なかった小中学校の先生方の交流が増えたという認識でした。



もっと先生と遊びたい！

子どもたちを大切に育てたいという思いは共通のはず。たばた議員は、情報の共有にさらなる努力を求めました。

法律相談

2013年1月21日(月) 13時30分～15時 予約が必要です。市議団までご連絡ください。